



NAGANO
農業女子
STYLE



ホームページ <http://www.noukatsu-nagano.net/joshi/>
Facebook も公開中！

企画 長野県農政部農村振興課 ☎026-235-7243
協力 桜美林大学ビジネスマネジメント学群 大熊省三ゼミ



NAGANO農業女子STYLE

毎日土をいじって、苗の植え付けをしたり、野菜の収穫をしたり。
ときにはトラクターだって動かしてしまう。
汗だくなるし大変だけど、その顔はいきいきしていてなんだかとても楽しそう。
気になる今どき女子の農業STYLEをご紹介。
(平成27年7月1日現在)

NAGANO 農業女子 STYLE 04

マリッジ農業女子

▶ P16

旦那さんが農家だったことがきっかけで農業の道へ。出会いまでは農業なんて考えたこともなかったけど、やり始めると楽しくて、いつの間にか一緒にやるように。気づけば農業の先に自分の夢をもつ農業女子。



NAGANO 農業女子 STYLE 03

Uターン農業女子

▶ P13

農業を営む家に生まれ育ち、一旦は地元を出て違う職業に就いたりしながらも、それぞれの理由により実家を継ぐために農業の道へ。後継者としての責任も抱えながら、バワフルに取り組む農業女子。



NAGANO 農業女子 STYLE 02

ワーク農業女子

▶ P12

農業法人に就職したことがきっかけで就農。機械を動かしたり、新しいことに挑戦しながら自分のできることの幅を広げる。休みの日はしっかり自分の好きなことをして、仕事としての農業を日々楽しむ農業女子。



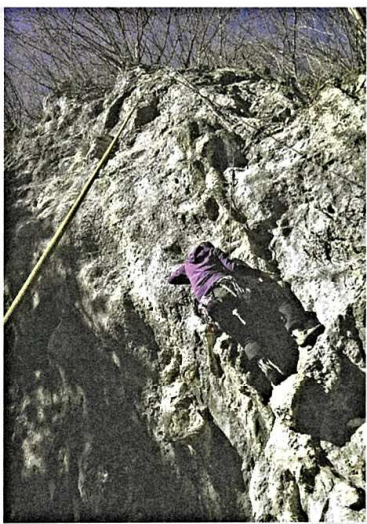
NAGANO 農業女子 STYLE 01

Iターン農業女子

▶ P4

生まれ育った土地ではないし、農業だってしたことない。だけど、「農業がしたい」そんな思いがきっかけで、旦那さんと一緒に長野移住。日々、初めてのことに奮闘しつつ地域の人々に支えられて農家の道を歩む農業女子。





趣味は夫婦で楽しむアウトドア。長野県には人気のクライミングスポットが豊富。千曲川が近いので畑からは石垣にできそうなほど大きな石がゴロゴロ。「農作業以外の作業が多いことも学んだこと」と七奈さん

NAGANO 農業女子 STYLE 1ターンの農業女子

野菜・水稲
勝野七奈
就農2年 ● 佐久市



勝野七奈(かつの-なな)
32歳、就農2年。愛知県生まれ。名古屋大学卒業後、7年間のOLを経て就農。23歳の時、高校時代の水泳部の先輩と結婚。岩登りやスキーなどアウトドアスポーツが趣味。

東京のOLから転身 長野県農業大を経て夫婦で就農

雄大な浅間山と向き合う景色の良い畑で作業をする七奈さん。よく日焼けした笑顔が似合い、時には「サーファー?」「ボーター?」なんて聞かれることもあるとか。高校時代の先輩でもある夫・友裕さんと一緒に農業を始めて2年目。ミニトマトやズッキーニを中心とした野菜と、米作りをしています。

もともと東京のOLだった七奈さん。週末には山登りやスキーなどで長野に来ることも多かったそう。そんなある時、友裕さんから「農業がしたい」と言われ、驚きはしたものの「それもいいね」と快諾。実家のお母さんが花作りを好きだったことや、学生時代にトマト農家で収穫のお手伝いをした経験があるなど、土いじりにも興味がありました。そして決めたのが、長野県小諸市にある農業大学の研修。2年間の研修を積み、土地に縁が出来たことから移住を決めました。

「とにかく種を植えないと収穫できないから」と、1年目は一生懸命に種をまきました。ふたりの熱心さに大地もズッキーニも応えてくれたのでしょうか。なんと「朝晩収穫して

も追いつかないくらい採れ過ぎて、ホント大変でした。」

夏の厳しい農作業だって冬のこぼ美があるから頑張れる

七奈さんが住む地域も、日本の社会を象徴するような高齢化が進む地域。しかし、畑に出れば、農業の「大先輩」たちが娘を心配するように声をかけてくれます。農作業でクタクタになって帰宅すれば、玄関先に揚げたてのコロッケや天ぷらなど、晩ご飯のおかずが届いていることもあって「本当にありがたいです。近所には農業の師と仰ぐ長老もおり、知恵を借りられる環境があります。成長を見守ってくれる環境があります。夏場は朝から晩まで農作業や出

Q & A

Q. 夫婦で農業するって、どんな感じですか?

A. 農業は、ふたりで協力しないと出来ないことも多いんです。ケンカした時には違う作業をしたり、ほかの畑に行ったりもしますけど(笑)。



ふたりでお酒を飲むことが楽しみという仲の良い夫妻

Q. 育てた野菜で、どんな料理を作っていますか?

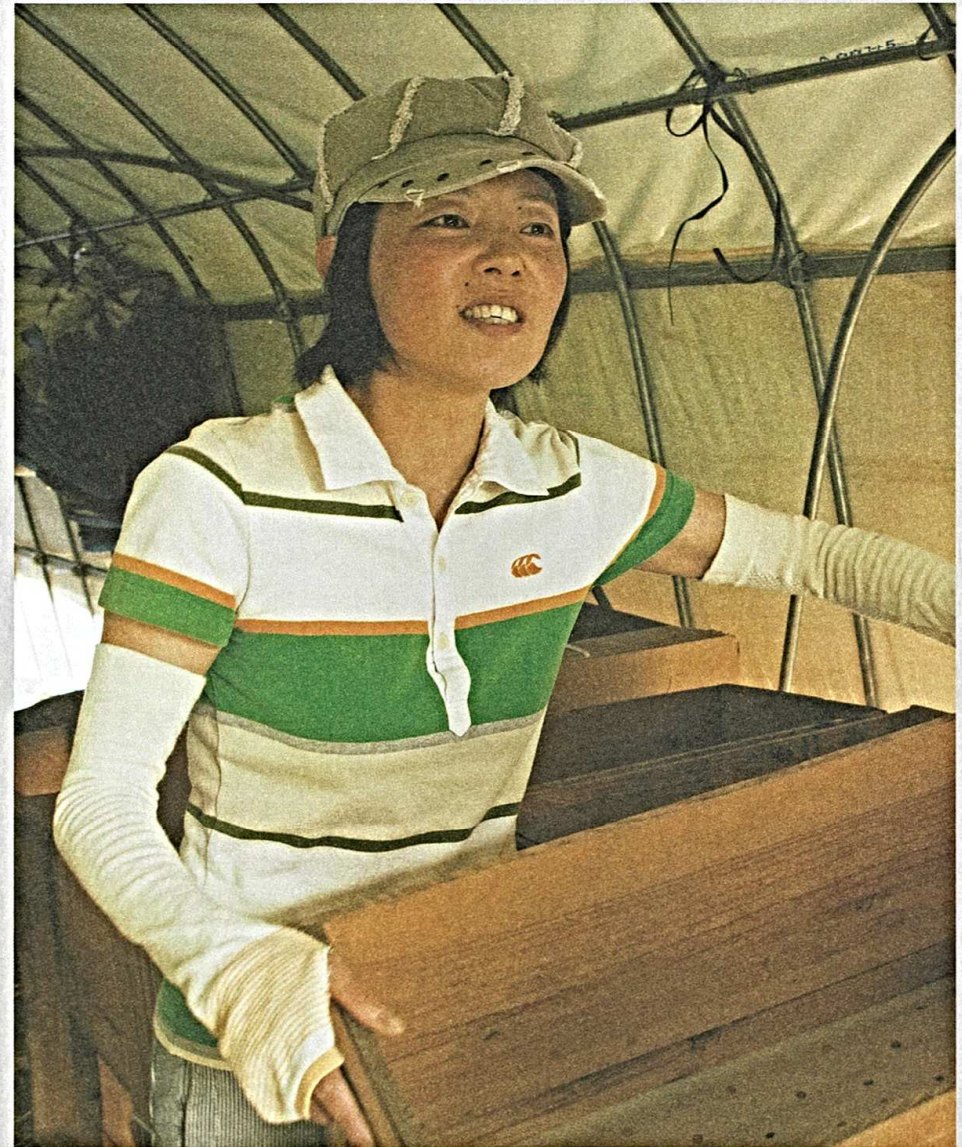
A. 鮮度や素材の良さを生かしたシンプルな料理が一番美味しいですよ。そのまま食べても美味しい野菜を作る生産者になるのが理想です。



ななとも農園

NAGANO 農業女子
STYLE
1ターン農業女子

野菜
大西美樹
就農3年 ● 茅野市



ふたりの夢が実現
八ヶ岳山麓で営むパセリ農家

八ヶ岳山麓の豊かな自然に包まれ、ゆるやかな時間が流れる茅野市豊平地区。この地で、「ご主人とともにパセリをメインとし、ズッキーニ、ブロッコリー、寒締めほうれん草などの栽培を手掛けているのが、Loco Bus Gardenの大西美樹さんです。

美樹さんは静岡県出身で、ご主人亮多さんと結婚して12年目。元々、亮多さんが観葉植物を育てることが好きだったことから家庭菜園にも挑戦。そこから「本格的に農業がやりたい」という気持ちで芽生えたと亮多さんは話します。大西夫婦は、八ヶ岳周辺によく遊びに出掛けていたこともあり、「いつかはこんな自然豊かなところで暮らしたいねって話していたんです。移住希望者向けのセミナーにも積極的に参加して、やっぱり本気で農業をやるなら、八ヶ岳の麓へ行きたいよねって。こうして、ふたりの夢が実現することになったのです。

原村で1年間の農業研修を経て、2013年に独立。「最初は何をやっていいのかわからなかったのですが、先に移住していた農業の先輩方からいろいろ教えていただいて。そういう方々に本当に助けてもらいましたね」と美樹さん。今では、情報交換も兼ねて1ターン仲間が集うことも多く、取材で伺ったこの日も自宅庭でBBQをするとのこと。「茅野に来て本当によかった。今までの生活とは一変しましたが、知り合いも増えて毎日楽しいです」と笑顔も浮かべます。

Q & A

Q. 育てた野菜で、どんな料理を作っていますか？

A. 生パセリと生おからが入った「手づくりパン」、生パセリ入りの「アボカドディップ」、自家製大豆で作った「手づくり豆腐」などを作っています。



茅野市のすすめで栽培をはじめたというパセリ。夏場は茅野産のものが多く出回るそう。自家製の素材を使った料理にも挑戦している

Q. 日焼け対策では、どんなことに気をつけていますか？

A. 帽子やアームウォーマーは日焼け対策では欠かせません。特に日差しが強い日には、つばの大きい帽子をかぶるように気をつけています。



Loco Bus Garden
長野県茅野市本町東12-6
☎0266-78-6305

らなかつたのですが、先に移住していた農業の先輩方からいろいろ教えていただいて。そういう方々に本当に助けてもらいましたね」と美樹さん。今では、情報交換も兼ねて1ターン仲間が集うことも多く、取材で伺ったこの日も自宅庭でBBQをするとのこと。「茅野に来て本当によかった。今までの生活とは一変しましたが、知り合いも増えて毎日楽しいです」と笑顔も浮かべます。

大西夫婦の1日は、朝5時のパセリ収穫から始まり、日が暮れるまで農作業に打ち込みます。「毎日大変さを実感しますね。昨年上手くいったからって、翌年同じことをしても天候によってはダメになっ

てしまふときもありますし……。でも、こっちなきて「つくる」を実践できるようになったのが日々の喜びです。美樹さんがそう言うて出してくれたのが「手づくり豆腐」や「生パセリを使った手づくりパン」。自家製の大豆や収穫したパセリを用いたもので、ほかにも手づくり味噌や納豆にも挑戦したんだとか。

移住して4年目、農業をはじめて3年目になる大西夫婦。「いずれは農家民宿をやってみたいですね。そこで農業体験を広める活動ができればいいな」。八ヶ岳山麓の地で育まれた新たな夢を胸に、夫婦二人三脚で歩み続けていくのです。



大西美樹(おおにし・みき)

40歳、就農3年目。御主人が就農を希望。普及センター主催のセミナーに参加し、独立就農できる自信が付き就農。主にパセリを栽培している。自宅の庭には、亮多さんによる手づくりの棚やイスなどが、1ターン仲間の集いの場になっている



NAGANO 農業女子
STYLE
1ターンの農業女子

果樹
中村 忍
就農1年 ● 生坂村



中村 忍(なかもらしのぶ)

37歳、就農1年目。元自衛官。同僚だった御主人が就農を希望し、生坂村に移住。今後は、フードコーディネーター2級の資格を生かして加工品の商品開発を行ってみたいという。



左:「訳のわからない文房具を集めるのが好き。持っているだけで幸せな気持ちになります」と見せてくれた花柄のマスキングテープや封筒など。直売所でポップを置くときによく使う。中:アイテムのテープナーを用いて光を通しやすくなるよう枝をテープで止めていく。左:てぬいといとアームカバーは忍さんが好きなハンダモチーフ。「好きなものを身につけてモチベーションを上げます」



元自衛官で1ターンの農業で地域活性化を目指す

「農業は、防衛訓練に比べたら楽です(笑)。そんな衝撃的な言葉を残してくれたのが、生坂村のご主人とともに生食ブドウ栽培を手掛ける中村忍さん。実は忍さん、なんと元自衛官。福岡県出身で防衛大学卒業後、陸上自衛隊に入隊。14年間、厳しい訓練を重ねてきた経歴を持つのです。

自衛官時代、同期だった夫と和博さんがある日突然、「農業で地域活性化したい」と言い出したことがすべての始まり。「農業経験ゼロのあなたが何言ってるの!」ひとりで行きなさいよ! って何度もケンカに

なりました。でも、子どもたちのことを考えて、結局付いていくことにしたんです」と忍さん。その後、東京で行われていた長野県就業セミナーで生坂村の方と縁があったことから移住を決断したのでした。

生坂村から美味しいブドウを届ける

生坂村の第一印象は、「すっげー田舎!」と忍さんは笑います。買い物に行くにも隣町まで出なくてはならず、東京生活とはうってかわって不便なことばかり。「インターネットがなければ帰っていましたよ。でも、前の職場の人たちに応援してもらったし、付いてきた以上はやるしかないって。そんななかで

近所の方がここで採れた野菜を分けてくださったり、気さくで温かな生坂村の人たちに助けられましたね。」

生坂村農業公社の研修生として農業をスタートさせたふたりは、移住した同年に「小さな果樹園ぶてい・べるじえ」を開業。現在では、巨峰、シャインマスカット、ナガノパール、シナノスマイル、ロザリオロンなど多種のブドウを栽培するまでに。「美味しいブドウを食べられたときに1番嬉しい。採りたてを味わうのは格別です」と忍さん。また、農園のために役立てたいと、FCAJフードコーディネーター2級(食の商品開発)の資格を取得。さらには、食に対する五感を養うフードコンシヤネス研究所のインストラクターも務め、「商品の良さや、そこにある背景も伝えていきたい」と話します。

「1つづちに来て5年目。今の生活には慣れましたが、初心を忘れず、名前の通り小さな農園だからこそできることを大切にしていきたいですね。前職に比べたら金銭的には減りましたが、やって良かった! と自信持って言えるように続けていきたいです。」

Q & A

Q. 日焼け対策では、どんなことに気をつけていますか?

A. つばの広い帽子や長袖を着ることは、日焼け対策として欠かせないですね。



Q. 休日の過ごし方は?

A. 3児の母でもあるんですが、子どもたちと公園でのんびり愛犬の散歩を楽しむのがリフレッシュ方法のひとつになっています。



小さな果樹園 ぶてい・べるじえ
長野県東茅郡生坂村北陸郷14141
☎0263-88-5047 <http://www.petit-verger.com/>



夫の豪さんが移住を決するきっかけとなった風景。「ホントは春が好きだったのに、この景色を見たら秋が好きになった」と樹里さん。田舎が黄金に染まる美り風景は見事だという。集落の中でも一番上にある樹里さんの地蔵は「水の壺人」といって、雪解け水が下の集落へ流れるよう水路を維持する役割があるのだそう



四季の美しい風景の中で
今度はだれかの夢を応援したい

野沢温泉や志賀高原などスキー場でも知られる山々を望み、眼下には千曲川を挟んで田園が広がる眺望。いいでしょう？この風景、夏は下の方に火花が見えるんですよ。この景色が気に入って、夫は移住を決めたみたい」と樹里さん。ゆったり話す口調と優しい笑顔に、周囲の空気までほっこりさせてしまっかわいらしい女性という印象です。しかし実は、過去にはフリースタイルスキーで日本代表としてワールドカップに出場したこともあるアスリート。優しさと芯の強

さを併せ持つ、理想的な女性なのです。

もともと農業には興味はなかったという樹里さん。しかし、夫豪さんが「長野で農業がしたい」と言った時に抵抗はなかったそう。「だって、私はスキーで日本代表になるという夢を叶えたから、やりきったっていう思いはあるの。当時はホントにストイックに練習をしていて、周囲のことなんて考えていなかった。でも、終わってみたら、実は周りに支えられていたことに気付いたんだよね。だから、今度はだれかの夢を応援したいと思って」。豪さんの夢をかなえるべく、ふたりの田舎暮らしが始まりました。

Q & A

Q 育てた作物で、どんな料理を作っていますか？

A 米粉や季節の野菜を使ってお菓子、パン作りをしています。土にこだわって野菜を作っているから、美味しいお菓子ができあがります。



Q 農家民宿をやったよかったことはありますか？

A 何よりも、農作業を体験しにやって来る人々との出会いですね。豊かな自然の中で、都会にいた時よりも出会いが多くて驚きます。



株式会社mama
長野県飯山市豊田5463
☎0269-65-2366 <http://shizenyasai.jp/>

女性が経営する農業のモデルケースに「農業ってこんなに楽しい」を伝えたい

2012年の春、豪さんの祖父の家の主家を受け継ぎ、農業と農家民宿「城山荘」をスタート。地域のお年寄りの方言がわからず、文化の違いに戸惑いながらも歩み始めました。収穫した野菜でお菓子作りをするのも樹里さんの役割。パン屋になる夢を抱いて学んだ製菓の経験が生かされました。「人生って予想外のことが多いからね。農業をするのは強くてたくましい男の人っていうイメージだったけど、今春から私が経営者になったの。だから今、経営の仕事も勉強中」と樹里さん。実は

海外で農業ビジネスを展開することになった豪さんに代わって、社長を兼任することに。「でもね、トラックを動かさなくても、力がなくても、地域のシルバード人材を生かしたいし、女性がやってみたいと思ってるの。女性でも農業経営ができて、山の農業でも所得があつて楽しいということが伝えられるモデルケースになれたらいいなって思っています」。会社名の「mama(ママ)」には、方言で「田と田の間を支える土手のこと」や、母なる大地、ありのまま、自然のまま、そしてお母さんのママを含んでいるそう。樹里さんも今秋第1子を出産予定。ますます頼もしいママ社長になりそう。

NAGANO 農業女子 STYLE 1ターン農業女子

稲作・野菜
野口樹里
就農2年 ● 飯山市



野口樹里(のぐち・じゅり)
36歳、就農2年。神奈川県生まれ。フリースタイルスキーの元日本代表選手。2012年、結婚を機に移住。「株式会社mama」代表。農家民宿「城山荘」自産農産物を使った菓子作りなどを行っている。9月に第1子出産予定。

NAGANO 農業女子
STYLE
Uターン農業女子

畜産
峯村ちひろ
就農3年 ● 東御市



1頭1頭性格が違い、母のような気持ちになるというひろさん。今は子牛の管理を担当している。学生の体験学習の受け入れ、牧場内の直販所とインターネットで自家産牛肉の加工品販売をしている

峯村ちひろ (みねむら・ちひろ)

27歳。就農3年。幼少時から牛と兄弟のように育ち、エサ箱の中で牛のヨダレまみれになっていたことも。母と兄と兄嫁との4人で経営をしている

Q & A

Q. 自分にとってのご褒美や、1日の楽しみは何ですか？

A. ライブに行くことです。地元と同級生の2人組「MOROHA」のCDも力になっています。

牧舎 みねむら
長野県東御市新張 1265-354
☎ 0268-63-7415



牛のウンチなんてありえない！それが今では牛といえる時間が大好き

黒毛和牛230頭を飼う牛舎で子牛たちの飼育を担当して4年目。当初は「えーッ、牛のウンチなんて触れないし」と、腰がひけていた牛舎の掃除も今や手慣れたもの。「汚れにまみれて仕事をする自分の姿に、女性としてどうなのか？って考える瞬間もありますけど、親子愛や命の重みなど、牛から教わることでとても多いんです。だから一緒にいられる間は思いきりがわいてあげられるんです」と1頭1頭と笑顔で話しかけ、優しくなる姿があります。

父の病を機に、保育士をしていた東京からUターン。当時の園長から「何かビジョンを持って取り組んだ方が良い」と助言をもらい考えたそうです。目標は「牛の飼育を通じた食育と、自分が育てた牛肉料理を提供できる店を開くこと」。

愛情込めて育てた牛を出荷する時は、今でも涙がポロリ。でも、レストランでは、あえて牛肉料理をオーダーします。そして「良いシェフに出会えて良かったね」との思いで満たされるのだそうです。「これからも生産者だからできる食育を伝えていきたい」と素敵な笑顔です。

NAGANO 農業女子
STYLE
ワーク農業女子

水稲
白井瑛美
就農4年 ● 松川村



休みの日は、草競馬のほか、漫画を読んだり、音楽を聴いたり、のんびりと過ごすことも多いとのこと。最近では、北アルプスを望む約1haの園地でキャベツ栽培もはじめた

白井瑛美 (うすいえみ)

21歳。就農4年目。進路に迷っていたとき、出身校の卒業生だった社長の話を聞いたのがきっかけで、株式会社安曇野カンパニー入社。「このじよれんが好きなんです」とお気に入りの農具を見せてくれた。

Q & A

Q. 日焼け対策では、どんなことをしていますか？

A. タオルが必需品ですね。いつも首に掛け、日焼け対策のひとつにもしています。薄すぎず厚すぎない肌触りの良いタオルがこだわりです。



会社のために貢献したい。農業をはじめて4年目の21歳

もわんとした熱気に包まれたビニールハウスのなか、稲の苗が緑濃く、いきいきと育っています。シャワーを使ってさわやかに水をまきながら、「暑いけど痩せますよ〜」と笑顔で話してくれた白井瑛美さん。

瑛美さんは、安曇野市出身。地元の農業高校を卒業し、松川村にある農業法人にて勤務しています。「会社見学をさせてもらったとき、社長夫婦の人柄に惹かれて、がんばってみようかなって」と瑛美さん。そんな瑛美さんの趣味はなんと「草競馬」。安曇野親光草競馬大会で優勝した経歴もあります。「元々、実家でベットとして馬を飼っていたことが始めたきっかけです。いつも仕事の疲れを癒してもらっています」。

現在、農業を仕事にして4年目。今後は、機械の操作にも挑戦しながら自分の出来ることの幅を広げ、会社のために貢献していきたいとのこと。「手を掛ければ掛けるほど、作物は応えてくれるんです。直売所などで、美味しかったよ、って声を掛けてもらえるのが嬉し〜。農業は楽しいですよ」と話します。

NAGANO 農業女子
STYLE
Uターン農業女子

果樹
白鳥友季子
就農12年 ● 南箕輪村



梨を扱う時も手袋は着用。普段はこんなふうに作業をすることはありませんが、撮影なので特別に。愛犬のリンゴと、実家は農家民謡を聴いている。りんごを乾燥させて作った自家製チップスも好評

白鳥友季子(しとり・ゆきこ)

34歳。就農12年。大坂府立大農学部卒業。大学では収穫後生理学を研究。卒業後にUターンして両親とリンゴ園を営む。ブルーベリー事業部担当。

Q & A

Q 休日の過ごし方は?

A 休日の楽しみは登山です。でも、農作業のあるときは出掛けられないので、農閑期に冬山に登っています。だから、シューズも道具も本格的なものを揃えているんですよ。



大和屋農園
住/長野県上伊那郡南箕輪村6439 電/0265-72-1057

「もうお手伝いなんて言わせない! 農業は私の仕事です」
リンゴ畑の隣にある大きな木の下が子どもの時から「青空リビング」。リンゴのコンテナをひっくり返せば食卓にも勉強机にもなります。「もの心ついた頃からいつもここで過ごしていました。父が造ってくれたブランコもあって、今でも時々乗るんですよ」と少女のように風を切ってくれました。両親が営む果樹園に就農して12年。身長150cmと小柄なせいか、初めのうちは「両親のお手伝いをして偉いね〜」なんて子ども扱いされることもあったとか。しかし今は約30aのブルーベリー畑を任されています。「私が作った果物で喜んでもらえるんです。だから今は、私の仕事は農業です」と胸を張って言うようになりました。

傍らには今年5月に入籍したばかりの達也さんがいます。現在は別の仕事をしていますが「いつかふたりで農作業ができたらいね」とラブラブな新婚さんです。「いただきますと〜ごちそうさまときみともにくり返す幸せ」。友人が贈ってくれた歌は今の暮らしにぴったりの。友季子さんのテーマソングでもあるのです。



NAGANO 農業女子
STYLE
Uターン農業女子

果樹・野菜
殿倉由起子
就農5年 ● 飯田市



野菜を納めている「COCORO FARM VILLAGE」のココロマルシェ。隣のレストラン「リストランテ・コロリスム」でも由起子さんの野菜が使われている。地元の若手シェフたちと地元野菜・果物を知ってもらうイベントの企画を積極的に行っている

殿倉由起子(とのくら・ゆきこ)

31歳。就農5年。高校を卒業後、英国へ5年間留学しホスピタリティを学ぶ。帰国後、銀座の外資系ホテルに就職。結婚を機にUターン。野菜ソムリエ、ポムリエ。お酒を飲むことや、外食が楽しみ。

Q & A

Q 日焼け対策では、どんなことをしていますか?

A 日焼け対策は二重三重にしています。長袖にポロシャツの襟を立てるのが定番です。また、日焼けのためだけでなく、ピンクのタオルを巻いたり、赤い長靴を履いたりしてモチベーションを上げています。



株式会社 太陽農場
長野県飯田市下久堅下虎岩773 電0265-29-7755

「もうお手伝いなんて言わせない! 農業は私の仕事です」
野菜ソムリエコンピ「南信州ベジフルユニットYUUSA」のユツキーこと殿倉由起子さん。活動の幅は広く、70aのリンゴ畑やアスパラ栽培をする本業と並行して、地元レストランで食事を催したり、新聞や雑誌に執筆したり、地元FM放送に登場したり。しかも、昨年は政府主催の「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」に日本の女性農業者の代表として出席。5年間の英国留学と外資系ホテル勤務で培った英語力を存分に発揮しました。

「もうお手伝いなんて言わせない! 農業は私の仕事です」
専門農家で生まれた由起子さん。実は、子どもの頃から農業のお手伝いが嫌いで、留学を決めたのも「農業と関係のない仕事に就きたいから」。しかし夫の「農業がしたい」の一言でUターン。そこで農業にハマったのは由起子さんの方でした。リンゴの魅力を伝える「ポムリエ」となったリ、シェフやパティシエ、農業高校生らとも交流して農産物の魅力を発信。由起子さんには目標があります。「リニアが開通する2027年までに、南信州の魅力づくりをする」と。12年後が楽しみです。

NAGANO 農業女子

STYLE

マリッジ農業女子

果樹

竹内和恵

就農7年 ● 長野市

セミドライブルーベリーズン、イチジク、地元産くるみなどを使ったドライフルーツのサラミ(下)、ワインにも良く合うと評判



竹内和恵(たけうち・かずえ)

36歳。就農7年。東御市のヴィラデストワイナリーを経て、2008年に夫と果樹園を始める。ル・コルドンブルー菓子ディプロムを取得し、自家製の果実加工品を作る。7歳と3歳の男児の母でもある。

Q & A

Q. 自分にとってのご褒美や、1日の楽しみは何ですか？

A. 農作業のあとのランニングです。子どもの頃から走ることが好きで、仕事で疲れていてもランニングは別腹。地元の生まれではないので土地勘をつかむ意味もあります。



竹内果樹園
長野県長野市若穂線内8870
電話 026-285-0590



信州だから美味しいフルーツ生産者だから旬の味を発信したい。就農のきっかけは、大学生の時に付き合っていた彼(現在の夫)の家に遊びに行ったこと。「自分の家で収穫した農産物が食卓に並ぶなんて感動！ すぐにも彼と一緒にやりたいというより、この環境で暮らしたい！」と思ったのだそう。信州の農業法人で働き始めた彼を追って、同じ東御市内のワイナリーに職を見つけてきました。ある時「余ったから食べて」ともらった大量のリンゴでタルトを焼き、親戚じゅうに送っていたところ「あれ？ 地元で採れた果物でお菓子を作るって楽しい！」。果樹農家として独立するという夫とともに1カ月かけてフランスの田舎町を旅した時、気候風土を感じる各地の果物文化に触れ「信州でしか作れない果物を美味しく提供したい」と未来への夢が湧きました。それならば本格的に学ぼうと、乳飲み子を抱えて東京のフランス菓子専門学校へ通学。自家農園で採れる果物を使った自家製コンフィチュール(ジャム)やフルーツサラミ作りを生かしています。次なるゴールはジェラートショップ。信州の果物の美味しさを「もっと知ってほしい」。

NAGANO 農業女子

STYLE

マリッジ農業女子

水稲

清水絵美

就農6年 ● 中野市

第一印象はお互いに「最悪」だったというふたりも。今は仲良く農作業をしている。農作業をするようになってから「食べるものを選ぶようになった」と絵美さん。それに力仕事が多く、知らず知らずのうちに筋肉がついて「ジムいらず」



清水絵美(しみず・えみ)

33歳。就農6年。スキューのインストラクターをしている夫と知り合い結婚。初めは実家の看板屋の仕事をしてきたが、今は23haの田んぼを耕作。趣味はネイルアート。

Q & A

Q. 自分にとってのご褒美や、1日の楽しみは何ですか？

A. 自己流でしているネイルアートです。ネイルをしている時間は、無になれる時間。いつの間にか、パーツもサロンが開けそうなど種類豊富に集めてしまいました。



農事組合法人 ミツ和農産
住/長野県中野市三ツ和1768
電話/0269-26-7444



愛車のランクルから颯爽と降り立った姿は、街なかのショップ店員さんのよう。サンバイザーにサングラスにピアス。首から下げたお母さん手作りのリップクリーム入れに愛嬌を漂わせつつも、おしゃれなスタイルが絵美さん流。「どうせやるなら楽しくカッコ良くやりたいから。そうやって案内してくれたのは、大型特殊免許を取得し乗れるようになった大型のトラクターでした。「ボントは農業をやるつもりなんてなかったんです」と絵美さん。しかしある時、夫正督さんが乗る大型トラクターと一緒に乗り込んでみると、高い視界からは水を張った田んぼが望め、鳥の姿や季節の風が心地よい。「オニコレ！ 楽しいじゃん」と目覚めつつしまった瞬間です。それから「楽しむことが大前提」で始めた農業。草払機を使った草刈りも、30kgの米袋を持ち上げる自分のたくましさも楽しんでいきます。そして、いつでも欠かさないのはおしゃれ。農作業の手袋で見えなくても、指先にはネイルアートをしています。

楽しくなければ農業じゃないやるならカッコ良くやりたい

Q 農業で生活が成り立つの？

A 研修期間中は無収入ですし、就農してからも収入が安定するには時間がかかります。私の場合は、国の制度などを活用して就農の準備をしています。年々、販売額も増えており経営が成り立つめども立ってきています。

支援事業の情報はこちらで

農業で生活を成り立たせるためのひとつのめやすは売上高1000万円と言えます。条件が合えば、「青年就農給付金」等就農準備費用や生活費を補てんできる制度もあります。また、収入は農産物の販売だけではなく、ジャムやお菓子などを作り、収入を得ている方もいます。料理上手などの特技が、経営に活かすこともできます。



Q 一戸建てで住めるの？

A 私の場合は、市役所や農協の方が空き家情報を提供してくださり、現地を確認して決定しました。佐久市以外の市町村でも空き家情報を提供しているところが多いですよ。

市町村の
空き家情報はこちらで

市町村の移住情報、空き家情報、住宅支援制度情報を、該当サイトへのリンクにより提供しています。



長野県 空家等活用情報システム [検索](#)

Q 具体的に就農を考えるにはどうすればいいの？

A 私の場合には、県が定期的に開催している相談会に行って情報収集や分からないことを教えてもらいました。農業・農村体験などにより、自分のやりたい農業を具体的にイメージすることも必要なことだと思います。

県が主催する就農相談会

毎月、東京などで就農相談会を開催しています。「長野県の農業について教えて？」「農業は儲かるの？」「農業を始めるには何が必要なの？」「農村の暮らしてどんなもの？」など疑問やわからないことがありましたら、まずは御相談ください。



Q 同世代の友人はいるの？

A 若い農業者グループもあり、知り合いは多くいます。県では農業女子の仲間づくりも進めていただいているため、女性の知り合いも増えました。



Q 地域の方との関係は？

A 何かと声をかけてくれますよ。大変親切で、自分の家族のようです。私の方からも、地域の用水掃除などにも参加して、いい関係を築いています。



〈就農相談先〉 長野県農政部農村振興課

就農にかかわることは何でもお聞きください。関係機関と連携してあなたの目指す農業を応援します。
長野県長野市南長野橋下692-2 ☎026-235-7243 時間/8時30分~17時 休/土・日曜、祝日、年末年始 駐車場/あり

長野県で農業するってどんなこと？
農業女子に聞きました！

PLEASE TELL US
AGRI GIRL!

農業っておもしろそう。でも、知らないこともいっぱい……。
そんなあなたのために、農業女子の先輩・勝野七奈さんに、
長野県で就農するうえで知っておきたい制度や心得をお聞きました。

私が
解説します！



原 啓一郎さん
長野県農政部農村振興課
就農コーディネーター
私を含め県下に16名のコーディネーター
がおり、就農相談から就農後まで支援いた
します。まずは、長野県で就農をお考えの
皆さん、ぜひご相談ください。応援します！

私が
お答えします！



勝野七奈さん
32歳、就農2年。愛知県生まれ。名古屋
大卒業後、7年間のOL生活ののち、長野
県農業人学校での研修を経て佐久市で就
農。国や県、市などさまざまな就農支援制
度を利用した経験から、就農のノウハウを
教えてくれる。

Q 女性でも農業はできますか？

A 私の場合には、長野県農業大学校の研修制度で基本的な栽培技術を学びました。女性でも農業機械の運転はできます。ミニトマトなどは比較的収穫作業が軽くてすみますが、肥料袋(標準20kg)を運ぶこともあり、体力は使います。

長野県農業大学校とは

長野県農業大学校の松代キャンパスでは、学生として、農業の座学や実習を通じて基礎から実践まで2年間の学習をしています。また、勝野さんが研修された小諸キャンパスでは、農業で経営をしたい方、家庭菜園をしたい方などを対象に実習を中心とした短期間研修を行っています。



Q 長野県は冬が寒くて、不便なところが多いのでは？

A 私の住む佐久市は、冬は非常に寒いですが晴天日が多いので、洗濯ものがよく乾くので良い面もあります。また、病院やスーパー等も近くにはありますが、どの地域でも車は必需品ですので、普通自動車の免許は取得しておくべきですね。

Q 農業って一年中働くのですか？

A 栽培品目や地域により異なりますが、5月から10月が農繁期になります。忙しいときは朝から晩まで働きます。しかし、冬は農作業がない時期もあるので趣味や家族の時間に使っています。長野県は温泉が多いので、どの地域でも20~30分で温泉施設へ行けますよ。